

Vリーグ選手はどこに着目してブロックするのか

後藤浩史 (愛知産業大学), 石垣尚男 (愛知工業大学), 氏原 隆 (中京女子大学), 川岸与志男 (岐阜大学), 吉田 正 (愛知教育大学), 中西康己 (筑波大学), 川北 元 (順天堂大学院)

キーワード : バレーボール, 視覚情報, 着目点, Vリーグ選手

【研究目的】

バレーボールをプレーする上で、視覚情報を的確に認識することは非常に重要である。現場の指導においても「よく見て、プレーしろ」と頻繁に指導される。その時、問題になるのが、プレーヤーがプレーのどの局面で、何を視覚情報として認識すべきかということである。何を視覚情報として認識すべきかはプレーヤーの技術レベル、戦略レベルによって異なっていると考えられる。

そこで本研究では、ブロックを行う上で、どんな要素を意識して見ようとしているかについて、Vリーグに所属する選手を中心に、トップレベルの選手がどこに着目しているのか、また、男女による着目点の共通点、相違点を検討し、明らかにすることを目的とした。

【研究方法および対象】

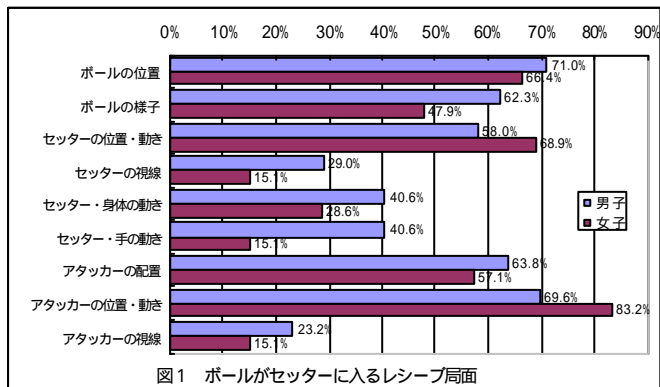
プレーの局面ごとに画像を提示した、質問紙法による調査を、Vリーグ男女、V1リーグ・地域リーグ女子を対象に郵送法で実施した (実施期間 : 平成 11 年 6 月 ~ 平成 12 年 1 月, 回収率 : 92%)。対象はVリーグ男子選手 69 名, V・V1 地域リーグ女子選手 119 名であった。

ブロックを行う際の、相手の各プレー局面における視覚情報の様々な要素のうち、意識して見ようとしている項目に関しての回答比率を比較・検討した。

【結果及び考察】

1. 相手のレシーブ局面

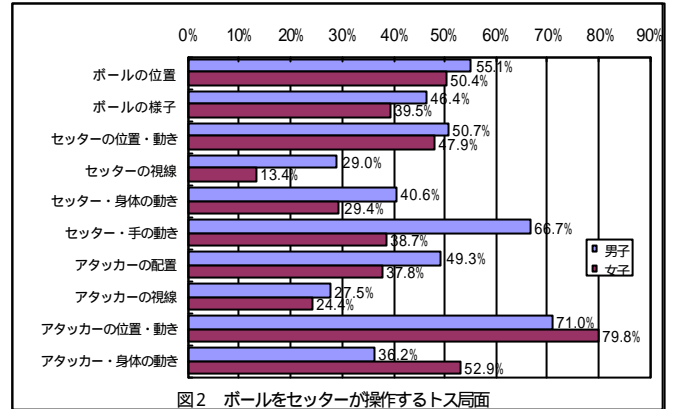
レシーブ局面 (図 1) においては、男女とも「ボールの位置」、「アタッカーの位置・動き」に着目しながらも、「アタッカーの位置・動き」(p<0.05)において女子選手がより高い比率で着目し、「セッターの目・視線」(p<0.05), 「セッターの手の動き」(p<0.001)に男子選手が高い比率で着目していた。



2. 相手のトス局面

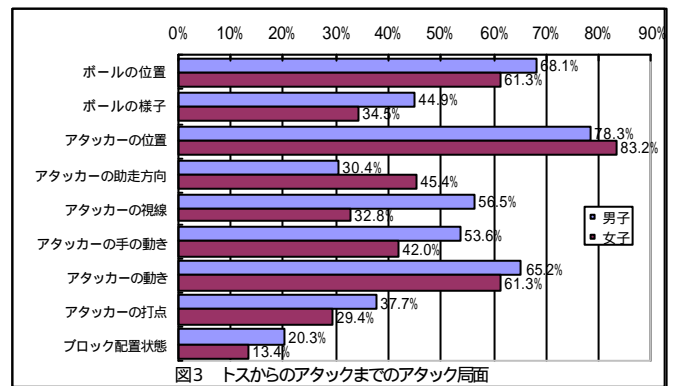
相手チームのセッターがトスをあげる局面 (図 2) では、男女とも「アタッカーの位置・動き」に着目しながら、女子選手は

「アタッカーの身体の動き」(p<0.05)に、男子選手は「セッターの手の動き」(p<0.001), 「セッターの視線」(p<0.05)に、より多く着目して、ブロック動作移動直前の視覚情報を意識していることが示唆された。



3. 相手のアタック局面

相手のアタック局面 (図 3) においては、男女とも、「アタッカーの位置」、「ボールの位置」、「アタッカーの動き」に着目しながらも、女子選手では「アタッカーの助走方向」(p<0.05)に、男子選手では「アタッカーの目・視線」(p<0.01)に、より多く着目し、「アタッカーの手の動き」に、より多く着目する傾向がみられた。



レシーブ局面、トス局面、アタック局面と、局面によって着目点は変わってくるが、女子選手はボールの位置を把握しながら、アタッカーの位置や動きを中心にブロック移動やブロック動作の情報を得ており、男子選手は女子選手に比べ、セッターやアタッカーなど、相手プレーヤーの目・視線、手の動きにより多く着目して、ブロック移動やブロック動作のための視覚情報を得ていることが示唆された。

ブロック時に意識して見ようとするところ、着目点の違いは、戦術として用いられるブロックシステムが、リードブロックであるか、コミットブロックであるかに起因しているとも推測されるが、それぞれのブロックシステムの着目点、また、同じブロックシステムであっても、ポジションによる着目点の違いについての一層の研究が今後の課題となろう。